

研究主題 「育てよう心と体」

ー 総合的な学習の時間を活用した食育を通して ー

江東区立辰巳中学校 西 敬司郎 他5名

1 研究のねらい

「人間が生きていく上での「食」の重要性に気付かせ、よりよく生きていこうとする意欲や態度、生命や自然を大切にする心の育成を図るため、教員の組織体制や具体的な学習内容及び指導方法を研究し、総合的な学習の時間における「食育」の全体計画の在り方を明らかにする。

2 研究の内容

(1) 「食育」の概念を共通理解する。

全教員がウェビング法を用いて「食育」に関する学習内容のつながりを研究することによって、想定される生徒一人一人の具体的な課題を下記のアからウに分類した。

ア 栄養の重要性を見直し、健康な生き方を考えさせる分野。→「健康・福祉」

イ 様々な食習慣に触れ、異文化について理解を深めさせる分野。→「異文化理解」

ウ 栽培や、環境ホルモン等の学習を通して、環境の大切さを考えさせる分野。→「環境」

(2) 「食育」の指導で培いたい知識・能力・態度を明らかにする。

教員・保護者にアンケート調査を行い、指導目標を明確にした。

ア 「食」を通じた知識に関して

集計結果によると「健康な体」「栄養」「食品」「日本の食文化」についての知識を培いたいという意見が多い。そこで、成長期にある中学生の健康に必要な栄養や食品に関する知識や日本の食文化に関する知識を身に付けることを重視する必要がある。

イ 「食」を通じた問題解決力に関して

集計結果によると教職員は「課題発見」「情報収集・選択と表現力」が多く、保護者は「課題解決の努力」「表現力」が多い。そこで、課題を見付け、解決する工夫や、その表現能力を身に付けることを重視する必要がある。

ウ 「食」を通じた態度に関して

集計結果によると「命」「自然」「感謝の気持ち」を大切にする態度を培いたいという意見が多い。そこで、生命や自然を大切にす、感謝の気持ちをもって生活する態度を身に付けることを重視する必要がある。

(3) 「食育」に関する全体テーマ及び学習領域を設定する。

概念の分析とアンケート調査により、全体テーマは「育てよう心とからだ」とした。また、学習領域は「健康・福祉」「異文化理解」「自然環境」とした。

(4) 総合的な学習の時間の指導計画を作成する。

ア 全学年共通の活動内容の設定

①総合的な学習の時間における生徒の活動を以下の7つの小単元に分ける。

☐ガイダンス ☐課題を見付ける ☐課題追究方法を考える ☐課題を追究する

☐情報の分析・まとめ ☐報告書・発表準備 ☐報告書提出・発表・評価

②年度当初のガイダンス期間に全校対象の「食育アンケート」を実施し、生徒が食に関

してどのような分野に興味をもっているかを事前調査する。

③「食」のプロフェッショナルによる講演会を2回計画する。

④生徒が個人の課題（テーマ）を設定する際に、ウェビング手法を用いる。

⑤分野別にグループ分けを行い、担当者との面接でテーマの本決定を行う。

イ 各学年ごとの活動内容の設定

調べ学習は主に学年ごとに行い、必要に応じて第2, 3学年が合同で行う。

①1学年では、「食育に関する総合的な学習のやり」をひと通り学ぶ。

②2学年は、1学年からの積み重ねで「学んだことをどう生かすか」を考える。

③3学年は、2年間の学習の積み重ねを「自分の生活にどう生かすか」を考える。

ウ 給食献立への連動

家庭科の授業で作成した生徒の献立「〇〇になる献立」を、給食献立に取り入れる。

(5) 授業実践を通して検証し改善を図る。

ア 全体テーマをもとに、生徒は課題を設定し、1年間の学習活動を行った。

イ 設定時間を、週1コマとまとめ取りの両方とした。(計70時間)

ウ 外部の機関や人材を活用した。

①生徒の課題追究学習の支援のために研究機関や学生ボランティアを活用した。

②検定試験（食生活アドバイザー検定4級）に挑戦する機会を作った。

エ 3月に一年間のまとめとして、学習成果の発表会を実施した。

オ 成果を検証し、全体計画を修正した。

①前期末にテーマを記入、課題設定能力について記述による評価を行った。

②後期中間に課題追究能力について記述による評価を行った。

③学年末にまとめと表現の能力について記述による評価を行う。

3 研究の成果

食品の多様性を理解し、具体的な健康に対する効果を試す献立を考案する姿勢が生まれた。たとえば、「脳の活性化」「貧血予防」等々を家庭や給食の献立に具現化する姿勢である。また、10月に開催された江東区主催の「おいしいメニューコンクール」で三名が優秀賞に選ばれ、実際に保健所で調理し、内一名が最優秀賞に選ばれた。11月には、「食生活アドバイザー検定試験（4級）」に3年生全員が受検し、9割以上の生徒が合格した。

本校の「食育」学習は江東ケーブルテレビや新聞等にも紹介され、生徒の大きな自信に結びついた。

記述式の評価により、生徒一人一人が自らの課題を見付ける力やよりよい解決を目指す姿勢などが育っていることが読みとれる。また、「食」に対する興味関心は高まりを見せたが、それが具体的に生徒の健康増進と望ましい食習慣の形成にいかに関与しているかについての検証は十分ではない。今後は家庭との協力等を視野に入れ、さらに成果を確認していく。

(共同研究者)

渡 邊 宣 子 (江東区立辰巳中学校)

檜 田 瑞 江 (江東区立辰巳中学校)

板 橋 貴 子 (江東区立辰巳中学校)

杉 崎 くに子 (江東区立辰巳中学校)

武 藤 剛 (江東区立辰巳中学校)